

教養と土木の関係性及び教養の獲得方法としての漫画に関する一考察

株式会社地域未来研究所 正会員 ○松本 浩和

1. 目的

本研究では、教養と土木計画の関係性について論じ、土木に関連した教養の獲得方法の考察を通じて、よりよい土木のあり方に資する知見を得ることを目的としている。2章で教養の定義を整理するとともに3章で土木との関係性を論じる。その後、4章で教養獲得のために想定される手法を整理し、5章でその一手法である漫画を具体例として考察する。

2. 教養の定義

辞書¹⁾では教養について、『①教え育てること』の他、『②学問・芸術などにより人間性・知性を磨き高めること。また、そのことによって得られる知識や心の豊かさ。その基礎となる文化的・知識・振舞い方などは時代や民族に応じて異なる』と説明されており、心の豊かさや人間性にも言及されている。今日の日本における一般的な教養観を『教養を高める＝知識量を拡大する』²⁾とすれば、教養とはこれよりも広義な意味で捉える必要がある。これは教養という概念の源流となる言葉とその意味(表1)を見ると、単なる知識量では測れない力が求められていることから理解できる。

また時代に応じて変化することから、近年の書籍等から教養についての定義に関する言説を収集する。齋藤³⁾は『自分の中に取り込んで統合し、血肉となるような幅広い知識』として教養を表し、竹内⁴⁾は教養人を『バランス感覚が優れている人』と表現している。藤垣・柳川²⁾は、情報化社会となった今の時代に求められる教養は『情報を選別する力』、『情

報を結び付けて活用する力』、『情報をもとに考える力』であり、さらに『自分とは考え方が異なる人と建設的に議論できる力』が本質的な教養に重要であると述べている。また藤原⁵⁾は、『これからの教養は書斎型の知識でなく、現実対応型』の知識でなくてはならず、それは『生を吹き込まれた知識、情緒や形と一体となった知識』であるとしている。ここで情緒とは、美的感受性や美的情緒、宗教的情緒を含む後天的に培われる心であるとし、形とは、弱者に対する涙・卑怯を憎む心・正義感などの価値基準となりうる人間のあり方と述べ、これらが知情意や真善美に似ていることを指摘している。

このことは、阿部⁶⁾が『教養の始まりは「いかに生きるか」という問いを立てたことにあった』と示していることに通じる。また職業選択の可能性が開かれていない時代において文字や書物に触れることのなかった農業などの伝統的職業従事者を考慮し、『自分が社会の中でどのような位置にあり、社会のためになにができるかを知っている状態、あるいはそれを知ろうと努力している状況』を教養があるとし、そうした人生に向かう姿勢を『集団の教養』と表現し、『個人の教養』とは別のものと定義している。

3. 教養と土木の関係性

前章の結果を踏まえると、“教養”は初等教育の社会科教育において涵養が目指される公民的資質(シティズンシップ)⁷⁾と極めて類似している。公民的資質は『社会生活のうえで個人に認められた権利は、これをたいせつに行使し、互いに尊重しあわなければならないこと、また具体的な地域社会や国家の一員として自らに課せられた各種の義務や社会的責任があることなどを知り、これらの理解に基づいて正しい判断や行動のできる能力や意識などをさすもの』と定義されている。藤井ら⁷⁾は、文明的環境の形成と公民的資質の涵養が相互循環的關係にあることを示し、文明そのものを形作り、かつ、それを高度化していくための工学的、社会的な取り組み全般

表1 教養の源流となる言葉とその意味・観点²⁾

源流	対応する言葉	意味・観点
古代 ギリシア	リベラル アーツ	新たな知識や情報を活用し、思考を柔軟にして自らのとらわれに気づき、そのとらわれから自分を解放して視点を変える力
ドイツ語	ビルドゥング	専門分化した知識や意見に固執せず全体を見る力
戦後 アメリカ	ジェネラル・ エデュケーション	自由な探求、無知や偏見からの自らの開放

キーワード 土木計画, 教養, メディア, 漫画

連絡先 〒530-0003 大阪市北区堂島1丁目5番17号 (株)地域未来研究所 E-Mail : matsumoto@refrec.jp

である土木と社会科教育との連携が大きな意味を持ちうる可能性を論じている。

また阿部⁶⁾は世間の中で生きるためには必ずしも西欧的教養は必要がないとし、小学校から高校までの教科書は実生活においてほとんど役に立たないものと述べている。ここで例として地理におけるゴミ処理の問題を挙げ、『一つの地域としてごみ処理場が必要であることは述べられても、それに反対する地域の人々をどのように説得してゆくのかといった具体的な問題はほとんど取り上げられ』ないと指摘している。黎明期の土木計画史においても『住民運動の台頭と土木計画』が含まれており、土木と教養の親和性の高さが確認できる⁸⁾。

4. 教養獲得の手法

教養を高めるのに役立つメディアに関する調査では、新聞が51.3%と最も高く、テレビの31.0%、ポータルサイト・検索の10.6%等と比しても高い⁹⁾。

上記調査では書籍が選択肢に含まれていないが、書籍を推奨する例は多い。齋藤³⁾は、インターネットは情報が多すぎるため、テレビはわかりやすく伝えられるため、「(情報を取捨選択し) 潜る力」や「深みを感じ取る力」を得るために読書を勧めている。また藤原⁵⁾は『大衆文化教養』を養う方法に、講談本、漫画・劇画・アニメ、唱歌・童謡・歌謡曲、落語・講談等を挙げているが、『どうしても読書が主役になります。教養をどのように定義する人でも、読書を外すことだけは不可能です』と述べ、その理由として、目に触れること、本の形や色等が記憶の助けとなること、傍線や書き込みの存在を挙げている。ただしこれら言説は書籍に記されており、書籍を称賛するバイアスがある可能性は残る。ただし、1か月に読む本(紙媒体)の量が0冊であるとの回答が2013年の28.1%から2018年には49.8%と上昇している調査結果¹⁰⁾もあり、いわゆる本離れが進んでいる。

大石・藤井¹¹⁾は、土木を展開せんとする者に必要不可欠な教養は、『史実の一つ一つの「物語」を、(中略) 一人の一般庶民として繰り返し鑑賞すれば、自ずと身につくもの』としている。こうした物語を鑑賞するためのメディアは書籍に限らず様々なものが想定されうるが、過去の土木技術者の生き方を物語として鑑賞する示し方(例えば高橋¹²⁾)等が一例となろう。

これらより、教育獲得の対象と想定されるメディアを整理すると図1となる。全ての人々を対象とすると、2022年度の高校の地理総合必修化における「持続可能な地域づくりと私たち」に表される、教育現場における教科書・副読本が主たるメディアとなる。その他、本を読まない約半数の人について、対象とするか否かを含め、メディアの種類や示し方の検討が求められる。

5. 教養獲得の手法としての漫画

土木は全ての国民に関連し、かつ影響を与えることから、専門家への信託を円滑に進める意味でも、本を読まない人も対象とした教養獲得を目指す。

想定されるメディアとしては漫画があろう。例えば『重機人間ユンボル』¹³⁾は『週刊少年ジャンプ』(集英社)で2007年より掲載された作品である。当時のジャンプ発行部数は約280万部であった。作品内では災害の予測困難性やシールド工法などの周辺情報を伝えつつ、『道も家も民を支えるのは工事の力』であることが謳われる。2011年から掲載された『ドボジョ!』等によるジェンダー問題の解消等、様々な社会的問題を取り扱いつつリーダビリティの高さを併せ持つ漫画による教養獲得の可能性が指摘できる。

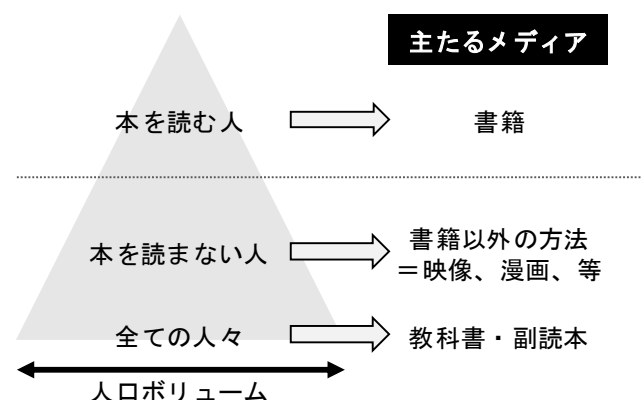


図1 教養獲得の対象と想定される主たるメディア

参考文献

- 1) 新村出編：広辞苑 第七版，岩波新書，2018。
- 2) 藤垣裕子・柳川範之：東大教授が考えるあたらしい教養，幻冬舎，2019。
- 3) 齋藤孝：読書する人だけがたどりつける場所，SBクリエイティブ，2019。
- 4) 竹内薫：教養バカ，SBクリエイティブ，2017。
- 5) 藤原正彦：国家と教養，新潮社，2018。
- 6) 阿部勤也：「教養」とは何か，講談社，1997。
- 7) 藤井ら：「土木」と「社会科教育」の連携の意義と可能性，土木学会論文集H(教育)，Vol.2，pp.39-44，2010。
- 8) 土木学会編：土木計画学の成立と背景，技報堂出版，1978。
- 9) (一社)日本新聞協会：データブック日本の新聞2019，2019。
- 10) (独)国立青少年教育振興機構：子供の頃の読書活動の効果に関する調査研究報告(速報版)，2019。
- 11) 大石久和・藤井聡編著：歴史の謎はインフラで解ける—教養としての土木学，産経新聞出版，2018。
- 12) 高橋裕：土木技術者の気概—廣井勇とその弟子たち，鹿島出版会，2014。
- 13) 武井宏之：ユンボル 安全版(上・下)，集英社，2010。